

科目名	卒業研究Ⅱ					単位数	3	時間数	90	
授業形態	演習	対象学生	PT 3年 PT 4年	学期	前期・後期 前期	教員実務経験	有	使用教室	302教室	
授業概要	指導教員の指導を受けながらグループごとに研究テーマを決め、論文作成・卒論発表会までを行う。									
一般目標	グループごとに研究テーマを決め研究の基本的プロセスを修得する。 卒論発表会においてその成果を発表する技術を身に付ける。									
テキスト 参考書等	最新理学療法学講座 理学療法研究法(医歯薬出版)、卒業論文作成の手引き 2021年度版(配布プリント)									

到達目標		
知識(認知領域) 研究用語や研究デザイン、統計手法について説明できる。		
技術(精神運動領域) 研究計画書作成、倫理審査承認、統計、論文作成、スライド発表を実施できる。		
態度(情意領域) 研究に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)		
回数	授業内容	授業目標
1～5	文献収集・整理	研究に必要な文献を適切に収集・整理することができる。
6～9	研究テーマの選択、研究計画構想	倫理的に配慮した新規性のある研究課題を選択し、研究計画を立案することができる。
10	構想発表会	研究背景、目的、対象、方法についてスライド発表を実施できる。
11～15	倫理審査書類を作成し、 審査において承認を得る	倫理審査書類を作成し、審査において承認を得ることができる。
16～25	データ収集	研究計画に従い、データ収集を適切に行うことができる。
26～30	データ解析	データに対して適切な統計手法を用いて解析を行うことができる。
31～34	考察	データ解析の結果を根拠を交えて客観的かつ簡潔に述べるができる
35	中間発表会	研究の進捗状況について発表を行うことができる。
36～40	卒業論文作成	卒業論文を完成させることができる。
41～43	発表スライド作成	発表スライドを完成させることができる。
44～45	卒業論文発表会	研究成果を発表することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度				評価なし	
発表・作品	○	○		100	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員	川崎 裕史、島本 祐嗣、他		実務経験紹介	本校教員として卒業研究の講義を担当している。	

科目名	臨床実習セミナーⅢ				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	PT 4年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	202教室
授業概要	総合臨床実習では、理学療法評価法や運動療法などの専門科目における前提知識が必要不可欠である。本セミナーでは、これまでに履修した専門科目の知識の理解度を確認し、知識の補填を行う。								
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床で必要となる各疾患について知識を修得する。 理学療法評価・治療の方法を身に付ける。 								
テキスト参考書等	テキスト: 必修ポイント 2021 障害別PT治療学(医歯薬出版)、Moodle 参考: 国家試験過去問(第48回～第54回の共通分野・専門分野)、これまでに学内で使用した教科書全般								

到達目標		
知識(認知領域) ・専門分野における障害別知識を調べることができ、他者に説明することができる。 ・専門分野に関連する専門基礎分野(解剖学、生理学、運動学など)について説明することができる。		
技術(精神運動領域) ・知識定着面において、理解が十分に達していない内容を把握した上で、対策をとることができる。		
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)		
回数	授業内容	授業目標
1	【骨関節系障害領域】膝・股関節疾患 テキストp.22-47、国試過去問	骨関節系障害領域における膝・股関節疾患や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
2	【骨関節系障害領域】膝・股関節疾患 テキストp.22-47、国試過去問	骨関節系障害領域における膝・股関節疾患や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
3	【骨関節系障害領域】膝・股関節疾患 テキストp.22-47、国試過去問	骨関節系障害領域における膝・股関節疾患や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
4	【骨関節系障害領域】骨折 テキストp.48-64、国試過去問	骨関節系障害領域における骨折や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
5	【骨関節系障害領域】骨折 テキストp.48-64、国試過去問	骨関節系障害領域における骨折や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
6	【骨関節系障害領域】骨折 テキストp.48-64、国試過去問	骨関節系障害領域における骨折や、関連する専門基礎分野(骨・筋の名称など)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
7	【中枢神経系障害領域】CVA評価・介入 テキストp.114-171、国試過去問	中枢神経系障害領域におけるCVA評価・介入や、関連する専門基礎分野(脳の解剖生理)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
8	【中枢神経系障害領域】CVA評価・介入 テキストp.114-171、国試過去問	中枢神経系障害領域におけるCVA評価・介入や、関連する専門基礎分野(脳の解剖生理)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
9	【中枢神経系障害領域】CVA評価・介入 テキストp.114-171、国試過去問	中枢神経系障害領域におけるCVA評価・介入や、関連する専門基礎分野(脳の解剖生理)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
10	【内部障害領域】呼吸障害 テキストp.332-357、国試過去問	内部障害領域における呼吸障害や、関連する専門基礎分野(肺の解剖生理)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
11	【内部障害領域】呼吸障害 テキストp.332-357、国試過去問	内部障害領域における呼吸障害や、関連する専門基礎分野(肺の解剖生理)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
12	【内部障害領域】呼吸障害 テキストp.332-357、国試過去問	内部障害領域における呼吸障害や、関連する専門基礎分野(肺の解剖生理)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
13	【内部障害領域】循環障害 テキストp.358-382、国試過去問	内部障害領域における循環障害や、関連する専門基礎分野(心臓の解剖生理)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
14	【内部障害領域】循環障害 テキストp.358-382、国試過去問	内部障害領域における循環障害や、関連する専門基礎分野(心臓の解剖生理)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。
15	【内部障害領域】循環障害 テキストp.358-382、国試過去問	内部障害領域における循環障害や、関連する専門基礎分野(心臓の解剖生理)の知識を調べることができる。学習領域において国家試験水準の知識定着が行えており、他者に解説することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史		実務経験紹介	理学療法士として病院勤務の経験があり、実習担当業務に携わってきた。	

科目名	国家試験対策セミナー				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	PT 4年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	203・204教室
授業概要	国家試験合格に必要な知識を得るに当たり、国家試験の概要を理解し、各自で対策を講じるための情報等を提供する。								
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 合格可能性検定試験①～⑨(学内模試)に対応する分野を学習し知識を習得する。 業者模試を定期的実施することで、自身の理解度や到達度を把握し、苦手分野を克服し習得する。 教員による国家試験対策講座を受講することで、理解を深め知識を習得する。 								
テキスト 参考書等	クエスチョン・バンク共通問題 クエスチョン・バンク専門問題 適宜資料配布								

到達目標	
知識(認知領域)	・国家試験合格に必要な知識を習得する。
技術(精神運動領域)	・国家試験勉強を効率的に進めるための、学習スタイルの確立や対策を講ずることが出来る。
態度(情意領域)	・国家試験に向け、意欲的に学習を進める事ができる。

回数	授業内容	授業目標
1	国家試験対策オリエンテーション	国家試験に関する概要(試験範囲、合格基準、問題傾向)を理解する。また、今後の国家試験対策の流れを理解する事ができる。
2	合格可能性検定試験①に関わる講義・指導	合格可能性検定試験①及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
3	合格可能性検定試験②に関わる講義・指導	合格可能性検定試験②及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
4	合格可能性検定試験③に関わる講義・指導	合格可能性検定試験③及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
5	合格可能性検定試験④に関わる講義・指導	合格可能性検定試験④及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
6	合格可能性検定試験⑤に関わる講義・指導	合格可能性検定試験⑤及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
7	合格可能性検定試験⑥に関わる講義・指導	合格可能性検定試験⑥及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
8	合格可能性検定試験⑦に関わる講義・指導	合格可能性検定試験⑦及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
9	合格可能性検定試験⑧に関わる講義・指導	合格可能性検定試験⑧及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
10	合格可能性検定試験⑨に関わる講義・指導	合格可能性検定試験⑨及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
11	業者模試①に関わる講義・指導	業者模試①及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
12	業者模試②に関わる講義・指導	業者模試②及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
13	業者模試③に関わる講義・指導	業者模試③及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
14	業者模試④に関わる講義・指導	業者模試④及び、その前後の特別講義、個別指導、試験後フィードバックにより、試験範囲に関わる知識を習得する事が出来る。
15	国家試験説明会	国家試験受験に向けた準備ができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	川崎 裕史、加藤 善範、他		実務経験紹介	本校教員として国家試験対策講義を担当した経験あり。	

科目名	臨床実習C			単位数	16	時間数	720		
授業形態	実習	対象学生	PT 4年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	なし
授業概要	クリニカル・クラークシップ形式の実習のもと、診療参加を経験しながら、各疾患において用いられる評価を経験し、評価技術を身に付けるとともに各評価の意義を学ぶ。社会情勢を鑑み、臨床実習の実施が困難となる場合は、学内実習により上記を補填する場合がある。 学内実習では、e-learningや症例検討、技術指導を中心に実施し、知識・技術の確認を行っていく。								
一般目標	・評価実習のチェックリスト上にある「理学療法に関する情報収集・検査測定項目」について、可能な限りその多くを実施レベル以上習得する。 ・実習後は実習中に作成したポートフォリオを基に凝縮ポートフォリオを作成し、臨床的思考を口頭試問にて適切に報告する。								
テキスト 参考書等	総合臨床実習ガイドブックを実習前に配布予定								

到達目標	
知識(認知領域)	・実習前に1年次・2年次・3年次に履修した専門基礎科目・専門科目の復習ができる。
技術(精神運動領域)	・臨床実習のチェックリスト上にある「理学療法に関する情報収集・検査測定項目」について、可能な限りその多くを実施レベル以上習得する。 ・実習後は実習中に作成したポートフォリオを基に凝縮ポートフォリオを作成し、臨床的思考を口頭試問にて適切に報告することができる。
態度(情意領域)	・意欲的に実習に取り組む姿勢を持つことができる。

回数	授業内容	授業目標
1		
2		
3		
4		
5		
6	各臨床実習施設において臨床参加をしながら、以下の項目を経験する	クリニカル・クラークシップ形式の実習のもと、診療参加を経験しながら、 ①実習前に1年次・2年次に履修した専門基礎科目・専門科目の復習ができる。 ②臨床現場で求められる常識的態度や責任のある行動ができる。意欲的に実習に取り組む姿勢を持つことができる。 ③対象者(患者様・利用者様)とコミュニケーションをとることができる。 ④臨床現場において疾患や障害を自己の目で観察できる。(見学) ⑤理学療法評価、治療的介入で見学・体験した内容について、その多くが実施に至る。 ⑥リスク管理に対する意識を養うとともに衛生・安全面の配慮ができる。 ⑦個人情報保護、守秘義務等、医療人に必要な倫理観に基づいて行動ができる。 ⑧実習先である医療機関・施設の機能・役割を説明できる。 ⑨各医療職の役割とチーム医療について説明できる。 ⑩臨床実習ポートフォリオ(資料集)を作成し、その内容をまとめることができる。 ⑪⑤、⑥で経験した内容を学内で再学習し、専門用語を用いて報告できる。 ⑫理学療法士を目指す目的意識を一層強固なものにすることができる。
7	I 職業人としての習慣・態度・業務理解 (主に情意領域)	
8	II 基本的な理学療法の実施過程の体験 1 理学療法評価・治療の見学および体験(主に精神運動領域) 2 理学療法評価・治療の選択 (主に認知領域)	
9	ポートフォリオ内で整理し記載	
10	III 理学療法士観の育成(情意領域)	
11		
12		
13		
14		
15		

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品	○			80	
演習		○		20	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	島本 祐嗣、川崎 裕史、他		実務経験紹介	理学療法士として病院勤務の経験があり、実習担当業務に携わってきた。(島本)	